



平成24年  
第22回  
体育祭より



目次

- 02 ■ 平成24年度入学式
- 03 ■ 学生部長挨拶
- 04 ■ 新任教員挨拶
- 07 ■ 保護者の会 役員会を開催
- 08 ■ 体育祭
- 10 ■ 二度目の映画祭・表敬訪問を経て
- 12 ■ YOSAKOIソーラン準大賞受賞
- 15 ■ 観光情報学会 発表報告
- 16 ■ creative frontier 2012 大賞W受賞!!
- 18 ■ 学生サポートセンターより
- 20 ■ メディアデザイン展2012 開催決定
- 21 ■ Library News

- 22 ■ ゼミ紹介
- 23 ■ クラブ紹介
- 24 ■ 南京大学 開学百十周年記念式典に参加して
- 26 ■ 大学院留学生の学位記授与式
- 27 ■ 南京大学から6期生が本学に編入学
- 28 ■ 第3回日本語弁論大会
- 30 ■ 留学生がバスハイキング
- 31 ■ 東南アジア一入旅
- 32 ■ 平成24年度公開講座
- 34 ■ 平成23年度決算報告
- 36 ■ 大学主要行事等



# 平成24年度

# 入学式

4月5日(木)午前10時から、本学松尾記念館講堂において、平成24年度北海道情報大学入学式が行われました。

今年度も開式前に、東日本大震災でお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

式の模様は、式場に設置されたテレビカ

祝辞を述べる松尾理事長



メラにより、保護者室(二〇一教室、二〇二教室、二〇四教室)と全国にある通信教育部の各教育センターにも生中継され、多くの保護者や教職員に見守

告辞を述べる長谷川学長



られる中、約一、〇〇〇名の新入生が、情報大学生としてスタートしました。

今年度も入学生が多く、式場内に保護者席を用意できませんでしたが、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の間行われました。

式の中では、入学生代表として秋本瀬奈<sup>せな</sup>さん(先端経営学科一年)が、南京<sup>あきもと</sup>大学編入学生代表として钟<sup>ちゅう</sup>钰<sup>ぎょく</sup>さん(情報メディア学科三年)が、これからの学生生活の抱負について宣誓しました。

式終了後には、新入生と保護者に対して、本学の開学に至った経緯等について知っていただくために、本学園の創立者である松尾三郎前理事長の生誕九十年を記念して収



録されたDVDの上映を行い、その後、学科・専攻ごとに分かれて場所を教室に移し、新入生・保護者・クラス担任の顔合わせを兼ねた学科別等ミーティングが行われました。

(総務課)

式場の模様



# 前期を終えて

学生部長 梅津 真

新学期開始から三カ月余り、あつと言間に学期末になりましたが、人命にかかわるような重大な事故や事件もなく夏休みを迎えることができホッとしております。

前期の二大行事である新入生宿泊研修と6月の体育祭は、学生実行委員の皆さんのお蔭で無事終了することができました。宿泊研修に先立って行われたクラブ紹介では、新入生を歓迎する上級生達の熱意が伝わってきました。パワーポイントを駆使したり、

エネルギーシユな実演を披露したりしながら、各クラブとも新入生の心をとらえようと工夫をこらしていました。定山溪のホテルでは、ゆつくりと温泉に浸かってからクラス毎に自己紹介などを行い、和やかな雰囲気の中で少しずつ気持ちもほぐれていったようです。夕食後の全体会の時に、コンピュータの不具合があつて学生実行委員が用意したUSBメモリが使えず、ちよつと残念な場面もありましたが、「よろず相談」は今年も盛況で、活発かつ有意義な交流ができたようです。

これは私だけの見方かもしれませんが、本学は開学以来の歴史が浅いせいか、先輩が築いてくれた伝統を受け継ぐだけでなく、

それを自分達の手でさらに磨き上げてゆくとする主体的な姿勢を持つている学生が多く、それが「後継者」である新入生を迎える時の「温かさ」につながっているような気がします。弟や妹が一日も早く大学生活に馴染むように手助けしたいという親心（兄心または姉心？）が至る所で垣間見られて、こちらもほほのぼのとした気持ちになりました。

因みに宿泊研修アンケートの項目「自分も何かクラブに入ろうと思いましたが」に対して、「思った」と答えた学生が86・7%、「今年の経験から来年の新入生に対しても宿泊研修を行う方が良いと思いますか」に対して「実施すべきである」と答えた学生が73・3%と、昨年よりそれぞれ3%あまり多くなっていました。

6月の体育祭は、残念ながら一部の種目がコンディション不良のため中止になったようですが、それでも暑からず寒からずの気温に恵まれ、各種目とも熱戦が繰り広げられました。表彰式の時に学生実行委員長の大川さんがてきぱきと指示を出し、各委員が迅速に対応して円滑な進行を心掛けていたのが印象に残っています。

最近世間を騒がせた某大学の飲酒死亡事故や、全国的に見られるいじめ問題などは、けつして「対岸の火事」ではないと思っております。特にツイッターなどは利用の仕方一つ誤ると、相手を傷つける「いじめ」に発展したり、大学のイメージを損ねたりする面がありますから、利用に際しては十分に注意し、基本的なマナーを守るようにしたいものです。

最後にヨサコイソーランの準大賞について一言。これが特筆すべき「快挙」であることは間違いありません。昨年の雪辱を果たして後世に残る素晴らしい結果を出したということ、私は最高に目出度いことだと思つていましたが、実際に踊つた学生の感じ方はちよつと違つていたようです。オリンピックの金メダルと銀メダルの「差」と同じようなものなのでしょうか。「大賞を取れなくて残念だった。完璧な踊りができなくて悔しかった」と言う学生がいたのです。クラブ活動でも勉強面でも、こういう「悔しさ」を忘れずに頑張る学生がいる限り、情報大の未来は明るいと思えました。



## イメージと偶然

情報メディア学部  
教授 岸田 一

この4月に情報メディア学部に着任しました岸田一です。よろしくお願ひします。簡単に自己紹介いたしますと、これまで三十年余りメーカーに勤めていまして、約9年間のUSA駐在経験を含み、研究から商品企画まで幅広く担当しました。この間に、Carnegie Mellon大学で客員研究員として分散システムの研究、山梨大学で学位、大連理工大学で客員教授としてユビキタシステムとオントロジーの研究にかかわってきました。

このたびこのようなご挨拶の機会をいただき、あらためて「イメージ」することと「偶然」の不思議さを感じているところです。山梨大学で修士学生を相手にした面白さから、いつか大学で教える機会があればいいなと思ひながら、サンデーゴルフならぬサンデーリサーチャで、何年もかかって学位を取りました。普通に考えると無理な話なのですが、チャンスがないこともないだろうといういろいろ応募してみました。研究も継続して、大連理工大学と共同研究もしました。そして、楽しかった研究指導

を思い出に、順当に諦めることにしました。それが一転、最初の幸運から数カ月間にクリティカルな偶然がいくつも重なり、今は授業やその準備に追われる毎日になっています。

マーケティングや起業関連の本を読むと、「イメージするのかなう」という趣旨の話がよくあります。「なりたくないもの」がイメージしにくい時は、「なりたくないもの」や「したくないもの」をイメージしてみるといいます。単純に「イメージ」が実現すると思うのは少々短絡的過ぎると思いますが、方向が決まるとその方向に歩き始めるので、その結果、実現していくというのも道理かなと思います。あるサッカー関係者が「科学的根性」という話をしていました。「好きなこと、やりたいと思うと、そうなるようにいろいろ考えるし、努力する」ということです。何にも思いつかないときはどうするか？ やっぱりこれですね、「暇でやることないから勉強でもすっか」。

USA駐在時はうんざりするほど飛行機に乗りました(五年間くらいUAの1K)。時間はたっぷりあったので、この機会に長編小説でもと思ひ、司馬遼太郎の「坂の上の雲」を読んでみることにしました。ご存知かもしれませんが、秋山家は維新後の典型的な没落貧乏士族で、兄の秋山好古は「月

謝だけでなく生活費はただで、小遣いまでくれる学校がある」というので陸軍士官学校に入校し、日本海海戦の参謀を務めた弟の秋山真之にいたっては、生活苦から寺にやられそうになっています。東郷平八郎は地方基地の司令長官からの抜擢でした。明治の必死さの中で(中だからこそ)、このような「偶然」が起きて、それが近代国家の形成に大きく関わっていたことに唖然とします。

翻って北海道情報大学のことを考えてみると、偏差値ほど個人の能力差はないのではないかと思ひます。元々は統計学を専攻していたのですが、大学入学時の成績と卒業時の成績に相関がないというデータ分析結果があったのを覚えています(極端に言えば、ビリで入っても一番になれるし、その逆もあり得る)。特に情報系は年齢的に若い学生に圧倒的に有利に働くので、大きく成長する可能性が極めて高く、実際、担当しているプログラミングの演習ではかなりいい手応えを感じています。「イメージ」できて、「科学的根性」が働き始めるよう、学生を指導・サポートしていきたいと思ひます。「偶然」の手助けも加わり、これからの中国を含めた国際的な情報ビジネス環境で活躍する人材がどんどん出てくるような予感がします。



## 自己紹介

経営情報学部  
講師 松本紗矢子

4月に先端経営学科に着任しました松本紗矢子です。今年度の担当科目は、簿記原理システム論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論Ⅱ、コンピュータ会計、プロジェクトゼミナールⅠ・Ⅱ、ゼミナールⅠ・Ⅱ、自己発見ゼミナールです。大阪で生まれ育ち、この3月まで、野球といえば阪神タイガース、エスカレーターでの立ち位置は右側、ツツコミは「なんでやねん」の世界にいました。

大学院時代は、大阪市立大学大学院経営学研究科で学びました。研究は、四半期財務情報が投資者の証券投資の意思決定にどのように役立っているのかについて実証分析を行っています。わが国では、従来、企業業績の開示が年二回行われてきましたが、2008年4月1日以後に開始する会計年度より四半期報告制度が導入され、本格的に四半期開示（三カ月ごとの業績開示）が行われることとなりました。これまで、四半期財務情報を用いた季節性の検証（どの四半期に売上高や純利益が偏るのか）や、四半期進捗率という業績達成尺度と株価との実証的関連性（四半期進捗率が大きいほ

ど株価の上昇幅は大きいのか）などについて分析を行ってきました。

そんな私と北海道との縁をたどると、中学時代に遡ります。一年生のときの担任の先生（美術）が、北海道に生息する絶滅危惧種のシマフクロウに、深い関心を寄せておられたのです。先生の影響を受け、私も自然とシマフクロウに興味を持つようになりました。担任の先生からいただいた手作りのシマフクロウのペン立ては、どこまでも見通しているかのようなシマフクロウの力強い眼差しそのままに、今も研究室の机の上で、私を見守ってくれています。

さらに、中学時代、北海道出身の作家、三浦綾子さんの本と出会いました。『氷点』『塩狩峠』など、ひたすら読み漁ったものです。このように、シマフクロウを知り、三浦綾子さんの本を読むたび、北海道に対する憧れは強くなっていきました。今、こうして北海道情報大学で会計学を教えることができ、胸弾む思いをしています。

さて、私が担当する講義科目の一つ、簿記とのめぐりあいは、大阪市立大学一年生のときでした。会計基礎論という科目が必修で、この講義内容は北海道情報大学では簿記原理システム論にあたります。しかし、会計基礎論の受講中は、簿記に関して特に思い入れを抱くことはなく、どちらかとい

うと苦手意識の方が強い状況でした。

簿記に取り組むようになったのは、実は、会計基礎論の期末試験終了後でした。受講に際して、せっかく日商簿記三級のテキストと及びトレーニング集を教科書として購入したのだから、せめて日商簿記三級に合格しないともつたいたいと思っただけです。いざ勉強し直してみると、企業の経済活動をイメージすることができて、心にしっくりくるものがありました。思えば、このときのもつたいたいという単純な気持ちですが、今の私に至る始まりだったのです。何気ない思いが人生を変えるものなのかもしれない。ぜひ学生のみなさんには、購入した教科書を、学ばないと損だという気持ちで、読み込んでいってもらえればと思います。最初は不得手だと思っただけでも、世界観が変わるような瞬間がきつと訪れることでしょう。

会計学は役に立つ上に面白い。そう思ってもらえるような講義を、これから繰り広げていければと思っています。どうぞよろしく願っています。



経営情報学部  
講師 ライアン ジョエル

## はじめまして

今年4月より経営情報学部にて講師として着任しました、ライアン ジョエルと申します。アメリカ出身、ミネソタ州のセント・ポール生まれ、来日十一年目です。

私が、日本に興味を持ちだしたのは、車のパーツです。中学生の頃、母の車はHONDAでした。ある日、車のボンネットが開いていました。覗いて見ると、ラジエーターのキャップに「熱いとき開けるな」と、英語と日本語で書かれていました。その漢字と仮名をジーツと見ながら、口で言えたらカッコいいな、と思いました。

急いで、大学で日本語を勉強していた先輩の所へ行き、言い方を教えてもらい、それから人に言いまくったのです。「アツイトキ、アケルナ」。そんなことがきっかけとなり、日本に強く興味を持ち始めました。日本というのは寿司、芸者、侍、優れた電気製品などが知られているけれど、実際に、どんなところかな？ 実際に行ったら、どんな人に会えるのかな？ そういった気持ち時間が経てば経つほど、日本語を勉強すればするほど、強くなりました。最終的には日本に行くなら観光客としてだけでは済まないと思いました。

日本に来て現在十一年目、色々なことに

慣れてきましたが、根本的な興味はエンドレスです。

日本での初めての仕事はALT(小・中学校の英語指導助手)でした。私はもともとと言語学が好きで、他の人にも興味を持ってもらうきっかけを作ることが好きです。

この仕事のお陰で、日本の英語教育環境と緊密にかかわることができ、日本人とは、どうやって第二言語を覚えていくのか、どんな動機で覚えていこうとするのか、こういった問題を深く理解するために第二言語獲得論を勉強し始めました。

中学校・高校における六年間の、いわゆる受験対策を基本とした英語学習の結果、英語でのコミュニケーション能力が乏しく、英語に対する苦手意識を抱いてしまいます。そのため大学に上がり、さらに英語を勉強することに抵抗感を持つ学生は少なくないようです。しかも、現代の日本社会では英語能力無しでも十分に生活できることは否めません。特に英語専攻でない大学生にとって、英語の必要性は実感しづらいと思います。

反面、日本がこれから対外的な競争力を保持するためには、英語でのコミュニケーション能力の重要性を否定できません。今後、国際的に求められる人材を養うには、日本の大学は英語にますます力を入れていかなくてはならないと思います。

大学の英語授業は、コミュニケーションを中心とした能力を築く機会です。英語が上達するためにはもちろん、文型や語彙の

勉強は不可欠ですが、特に英語専攻でない学生にとっても、受験対策の学習の中で覚えてきた基礎的な学習事項が、ちよつとしたきっかけで会話に使い、自信をつけることがコミュニケーションの上達につながります。

コミュニケーション能力には、「文法的言語能力」(grammatical competence)と「伝達能力」(strategic competence)は必要ですが、多くの英語授業は「伝達能力」より「言語能力」に拘ります (Dornyei & Thurrell, 1991, p.16).<sup>[1]</sup>

私の研究は、伝達方略(communication strategies)を中心にした授業を通じて、英語に興味を持つきっかけを作ることがテーマです。HUIでは、communication strategiesのトレーニングを含めた授業とシラバスをさらに発展させていきたいと思っています。教室の内外で学生との関係を築き、自分が携わることによって、学生がひとりでも多く、英語に対する苦手意識を払拭し、学生の達成感を養うお手伝いをしたいと思っています。HUIの学生の将来の夢や希望がひとつでも増え、視野が広がり、社会人として飛躍していくために自分が少しでも力になれると幸いです。

これからも、何卒よろしくお願い致します。

[1] Dornyei, Z. & Thurrell, S. (1991). Strategic competence and how to teach it. *ELT Journal*, 45 (1), 16-23.

# 本学eDCCタワーで保護者の会役員会を実施



今年度第一回目の保護者の会役員会を5月30日(水)に、本学eDCCタワー二階カフェレストランにおいて開催しました。

開会にあたり、長谷川学長から保護者の会に対するお礼を含めた挨拶と本学の現状等についての説明がありました。

その後、一年生の保護者からの新規役員の名を選任し、各出席者から自己紹介が行われました。

次いで大学からの現況・行事等の報告として、中居常務理事から、平成二十五年度から実施を計画している改組改編の概要、本学の改組にかける強い意気込みなどについて紹介がありました。続いて、中村就職部長から平成二十三年度卒業生の就職率及び平成二十四年度の就職指導スケジュールについて、梅津学生部長から学生生活について、学生サポートセンター事務室長から平成二十四年度の学生生活指導の行事についてそれぞれ説明がありました。

役員会終了後の懇親会においては、レストラン自慢の料理に舌鼓を打ちながら、保護者の会役員の皆様と学生生活・就職活動状況などについて懇談が行われ、ご子弟にかける期待と愛情のこもった話し合いに、瞬間に時が過ぎ、会を終了しました。

役員の皆様には、ご多忙にもかかわらずご出席いただき、貴重なご意見等をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。





# 第22回 体育祭

平成24年6月22日(金)  
23日(土)

今年の体育祭は、6月22・23日の二日間にわたり開催されました。種目は一日目が軟式テニス、卓球、バレーボールソフトボール、二日目がバドミントン、ドッジボール、サッカーの予定でしたが、ドッジボールとサッカーは悪天候のため中止になりました。







# 二度目の映画祭・表敬訪問を経て

情報メディア学科 田邊 優人

自分でも信じられないが、私は二年連続でタイの映画祭で受賞、そして、情報大学と提携をしているラジャマンガラ工科大学(以下RMIT)への表敬訪問を行ってきた。あまりの出来事に私は、「少し天狗になってもよいのではないだろうか?」と、そんな

バーマンセオリー」。私が演じる、数字が好きすぎる男・ナンバーマンを追ったドキュメンタリー風のコメディ映画である。この作品をタイで行われる9フィルムフェストという映画祭(コンテスト)に応募したところ、見事最終選考に選ばれ、結果はなんと最優秀賞(グランプリ)を受賞。私も最優秀主演男優賞を受賞し、素晴らしい結果を収める事ができた。この結果にRMITの方はまるで自分の事であるかのように喜んでくれ、祝福してくれた。タイの人々の温かさに感動を覚えながら、私はほくほく顔で帰国したのであった。

タイトルは「Numberman in Love(ナンバーマンインラブ)」。今年の映画祭のテーマが「HEART(ハート)」ということで、恋愛がある女性に恋をし、様々な苦悩がありながらも、何とか愛の告白をするというラブコメちつくなお話になっている。撮影した当初は、「セミアイナルに残って話題にでもなれば…」と、そんな気持ちで映画祭に応募したのだがセミアイナルどころか最終選考のファイナリスト九本に残ったのである。私と島田先生は半ばパニックになりながらも慌てて準備をし、タイへ向かうことになった。

2012 SEMI  
は去年(2011年)に遡る。私が所属しているゼミの担当教諭である島田先生と一本の短編映画を作った。タイトルは「Numberman Theory(ナン

ここまでが去年の話である。それから約九カ月程たった今年(2012年)の3月の終わり頃、私と島田先生とで今年行われる映画祭の第二回開催について話し合いを行った。「前回、最優秀賞を頂いたのだから、せっかくなので新作を作って応募しよう!」ということになり、去年の作品のパート2を作ることになった。

前回の映画祭は野外ステージで行われたが、今回は商業施設の中の映画館を使用して行われた。前回以上に私たちがここにいていいのだろうか、という気持ちになりながらも映画祭は始まった。九本の作品を見た後、授賞式に移った。結果は、作品は審査員特別賞を受賞。そして、私はなんと二

映画祭ホームページより





年連続で最優秀主演男優賞を受賞した。去年の受賞以上に信じられなかった私は、名前を呼ばれているのに固まって動けなかった。興奮冷めやらぬ中、映画祭は無事終了した。

急な訪問にも関わらずRMUTTの方々は私たちをとて暖かく迎え入れてくれた。今年は学期中の訪問となり、私たちは授業を

見学させてもらえることになった。RMUTTの学生たちは皆楽しそうに授業を受けており、自分自身のために授業を受けているということがひしひしと伝わってきた。私は、学生とはやはりこうあるべきだなと、再認識した。様々な授業を見学した後、RMUTTの方々とお昼をご一緒した。その後、学部長の方と面会をし表敬訪問を終えた。RMUTTの方に空港へ送ってもらい、私たちのタイでのお仕事(?)は無事すべて終了した。

今回、私はタイに行く上である個人的な目標を立てていた。それは、「タイで美味しいものを見つける」という大きいようで小さな目標である。というのも、前回私は初めての海外旅行であったため、少し冒険しすぎて、「食」で失敗してしまっていたのだ。今回はその経験を生かし、現地の人にオススメを聞くことによって、心から美味しいと思えるタイ料理を見つけて満喫することが出来た。中でもカオパ(タイ風炒飯)やパツタイ(タイ風焼きそば)は今まで食べたタイ料理の中で一、二を争うほど美味しかった。

小さなことではあるが、失敗は成功の素という言葉をもっと理解することが出来た。また、今回の旅で人のつながりの大



タイで人気のパツタイ

切さというものを今更ながら実感した。前回、映画祭に行かなければ出会わなかった人たちと再会し、また、新たな出会いもあった。もう二度と会うことは無いかもしれないが、こういった出会いが増える事を私はとても嬉しく思っている。RMUTTの方とも一年ぶりに再会したのだが、昨年、たった数時間しか会っていないはずなのに、私はまるで幼馴染に会うような懐かしさや嬉しさがこみ上げてきた。このような素晴らしい事を私は今回の旅で学ぶ事が出来た。

二度の映画祭・RMUTT表敬訪問を経て、私はまた一つ大人へと近づけた気がします。このような貴重な体験をさせて頂いた事に心より感謝しています。情報大学の関係者の方々、RMUTTの方々、そして私という人間を日頃から支えてくれてる全ての方々へ。本当にありがとうございます。



やったぜ!

# 準大賞獲得

## 本祭を終えて

情報メディア学部 3年 部長 則 峻介

部長に就任してから、半年近くの月日が経ちました。この半年間にいくつもの経験をしてきました。楽しいことも嬉しいことも辛いこともたくさんありました。しかし、「終わりよければすべてよし」という言葉があるように、今年度のよさこいソーラン祭りで準よさこいソーラン大賞を獲得するという最高の終わり方を迎えることができたので、すべての経験はこの喜びを目一杯感じるための布石だったのだと今は思っています。

大学1年の時の初めてのよさこいソーラン祭りでは、ファイナル進出。2年目のよさこいソーラン祭りでは、セミファイナル止まり。このときの悔しさは言葉では表現できません。その悔しさをバネにして迎えた3年目の今年のよさこいソーラン祭りでは、準よさこいソーラン大賞を獲得しました。今迄で、一番いい賞をいただくことができました。自分が部長に就いているときにこのような賞を受賞できたことは、非常に誇りに思っています。



2012年  
YOSAKOI  
ソーラン



## 江別まっことええ & 北海道情報大学

### ■■ 受賞の足跡 ■■

※北海道情報大学が「江別まっことええ」チームに合流参加してからの受賞歴です。

- 2012年 準YOSAKOIソーラン大賞
- 2011年 セミファイナル第3位  
北海道知事特別賞  
地方車賞
- 2010年 ファイナル優秀賞
- 2009年 ファイナル第8位  
札幌商工会議所会頭賞
- 2008年 ファイナル第10位  
ソーラン節のふるさと積丹町賞
- 2007年 ファイナル第5位  
札幌市長賞  
財団法人日本ファッション協会理事長賞
- 2006年 セミファイナル第8位
- 2005年 受賞なし
- 2004年 受賞なし
- 2003年 受賞なし



### ■1年 坂本純平■

大学に入学してきて、どのサークルに入るうか悩んでいたところ、サークル紹介でYOSAKOIを見て、その迫力にとても感動し、すぐにこのサークルに入ろうと決心しました。見学に行くと踊りの練習をさせてもらった結果、楽しくてしょうがありませんでした。もともと人前で踊るとかは苦手だったんですが、今では観客の笑顔や拍手、喝采がとてもうれしくて、そのたびに「YOSAKOIやってよかった!」という気分になります。

### ■1年 小笠原雄大■

私は大学に入学して初めてYOSAKOIというものに触れました。たまたまサークルの見学にいったら先輩に「1回踊ってみようよ!」と熱心に勧められました。そのときは「本当に楽しいのかな?」と疑問に思っていたんですが、実際に踊ってみると本当に楽しくて、YOSAKOIを始めてみよう!と決意しました。練習はきつかったですが、振り覚えて演舞の完成度が高くなっていくごとにワクワクしました。毎日の練習が準大賞という大きな賞に結びついたのだと思います。

### ■1年 箭原明日菜■

私は昔から運動が全般的に苦手でした。そのため部活紹介で入ってみたいと思っても、ついていけないかと不安で入れないでいました。けれども練習を見に行き、本当に近くで見た演舞の迫力に、自分もできるならあのように踊ってみたいと思い、あきらめずに頑張ろうと入ることを決めました。そして本祭で踊りきった後は自分はやり切れたと本当に感動しましたし準大賞を頂け本当に嬉しかったです。本当にYOSAKOIをやったよかったです。

### ■1年 田中澪奈■

私はサークル紹介での演舞を見て、YOSAKOIをやりたいと思いサークルに入りました。初めはついていけないか不安でしたが、サークルの先輩やチームの人たちのおかげで、何とか踊れるようになりました。本番1回目はとても緊張していましたが、回数をこなしていく内に楽しくなって、終わるのがさみしく感じられました。結果は準大賞をいただきました。これからは準大賞チームの一員として精一杯頑張りたいです。そして来年は大賞をとれるよう頑張っていきたいです。

### ■2年 中村太介■

2年目のYOSAKOIは、一年目とは楽しさが全く違って感じられました。後輩が入って立場が変わり、半年間という長い練習期間を経ての本祭ということもあり、昨年の本祭とは重みが全く違いました。余裕が全くなかった昨年と違い、今年の演舞では、お客様の表情や声を改めて感じることで、YOSAKOIを始めて本当に良かったと思いました。今年足りなかった部分を、沢山のイベントで学び、来年こそ大賞目指して頑張ります。

### ■2年 唐澤拓也■

私がYOSAKOIソーランサークルに入って感じたことは、人との関わりがとて多くなるということです。情報大学のYOSAKOIサークルは大学生だけで構成されているチームではなく、江別市のまっことええという市民チームと合併して活動しているため、様々な年代の人たちと関わることとなります。幅広い世代の人たちが集まり、一つのことをやるというのはなかなか大変な事も多いですが、その様な中で今回のYOSAKOIソーラン祭りでとれた準大賞はとてもうれしかったです。たくさんの人たちと同じ喜びを味わえるのがYOSAKOIの面白いところだと思います。

### ■3年 副部長 柳澤利拓■

私は、北海道情報大学一年生からYOSAKOIソーランサークルに入って現在3年目になります。このサークルに入って3年間活動することにより、仲間と協力して頑張る大切さや、目標に向かって努力する大切さを知りました。今年のYOSAKOIソーラン祭りでは、みんな笑顔で声をだし、全力で踊り、そして準大賞を受賞出来たととても感動しました。私はこの大好きな仲間たちと出会えて、現在とても充実した大学生活をおくれています。

### ■3年 藤崎絵理■

私は今回のYOSAKOIソーラン祭りに出るのは、3回目ですが、とても緊張しました。練習はとて大変でした。それでもみんなから今年はファイナルに行きたい、大賞を取りたいという思いでした。上手く踊れなくて悩んだり、毎日の練習が大変で辛いと思ったこともありましたが、本番の時のお客さんの大きな拍手や声援を聞くと楽しいという事を伝えられているんだ。このために練習してきたんだと思えました。これからもっとたくさんの人と踊ってこういう気持ちを分かち合えたらと思います。

### ■3年 山勢友佳子■

私のYOSAKOIソーランサークルの第一印象は、楽しそう!というだけのものでしたが、二年生、三年生と学年が上がるにつれてだんだん変わってきました。もちろん楽しい気持ちもありますが、みんながひとつになって大きなものを作り上げる団結力と、本祭で賞を取った時の達成感に魅了されました。今まで頑張ってきたことが成果として結果に出るといのは素晴らしいことだと思います。私はその中のメンバーとして踊れたことをとてもうれしく思っています。

### ■4年 倉本敬宏■

自分がYOSAKOIソーランサークルに入ったのは、偶然でした。友達に誘われ、軽い気持ちで入り、YOSAKOIソーラン祭りを経験したときに考えは変わりました。思っていた以上に楽しくてそこからYOSAKOIにのめりこんでいきました。そして今年、学生最後の年で準大賞を受賞し、最高の思い出になりました。YOSAKOIに出会うことができ本当にうれしく思います。また、YOSAKOIをやっていたことで成長でき、この4年間は人生で一番楽しく、充実していました。

## YOSAKOIソーラン出演者の声

# 「観光情報学会第9回全国大会 in 盛岡」

## 発表報告

情報メディア学科 齋藤 一

手・東北観光の新たな価値創造」と題したパネル討論等、観光産業に関わる方々の貴重な意見を聞くことができました。

今回の大会で、私自身も発表し「大会優秀賞」を頂くことができました。発表内容は、私のゼミナ

平成24年5月25日に岩手県盛岡市のいわて県民情報交流センター（アイーナ）で開催された、観光情報学会第九回全国大会において、本学より五件（大学院生三名、教員二名）の研究発表を行いました（表1）。観光情報学会は、「観光」を「情報」の視点から捉え、観光と情報の融合による新しい学問領域の創出、この分野の人材育成、ならびに産学官連携の力を結集した観光振興による地域の活性化に貢献することを目的として設立された学会です。毎年各地で全国大会が開催されていますが、本年度は、「大震災からの観光復興」をテーマに岩手県で行われ、甚大な被害から観光の復興をリードされている、岩手県立大学の宮井久男教授、岩手県中核観光コーディネータの草野悟氏、そして、岩手県商工労働観光部観光課の戸館弘幸氏による「岩

ールで三年前から取り組んでいる「スイーツマップ」というプロジェクトに関しての報告でした。スイーツマップは、江別・札幌エリアのスイーツを紹介するパンフレットで、AR（拡張現実感）という技術を使って、カメラ付きのPCでパンフレットを映すと、付加的な情報を得ることができる、ゼミ生のアイデアとデザインが詰まった、これまでにない新しいパンフレットになっています。昨年度は、医療情報学科の西平教授のお声かけもあり、札幌市大学提案型共同研究事業『さっぽろスイーツと札幌・江別エリアの食素材の融合による次世代さっぽろスイーツ開発の可能性に関する調査・研究業務』において、スイーツマップを、そのPRツールとして使って頂き、更に内容を深めることができました。あらためて関係各位に感謝申し上げます。

観光情報学は、メディア、システム、経営、医療等を幅広く含む、複合的な学際領域です。私は、今回の受賞を機に、今後も情報メディア学科の学生とともに、デザインとITを融合した新しいメディアを創造し、地域に貢献できる研究を続けて参りたいと、再度、決意しております。



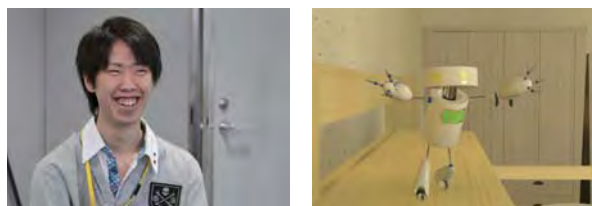
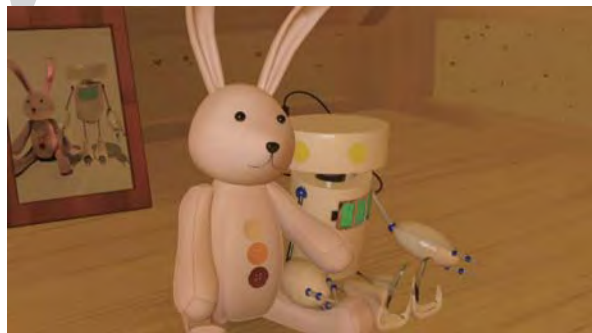
<表1 本学からの発表者・タイトル一覧>

発表タイトル	発表者	共著者
さっぽろ雪まつり期間における地域ツイートの分析	◎横川 祥司	齋藤 一、隼田 尚彦、安田 光孝
札幌・江別エリアにおける位置情報を活用したサービスに関する考察	◎阿部 裕介	齋藤 一、安田 光孝、隼田 尚彦
学生ミュージシャンによる江別市野幌地域活性化の提案 -音楽による商店街の空き店舗の有効活用-	◎新川 貴彬	安田 光孝、齋藤 一、隼田 尚彦
CGMをベースとした観光情報提供方法に関する考察	長尾 光悦	
地域の食材を生かしたコンテンツとその情報発信に関する一考察 ～えべつ・さっぽろスイーツマッププロジェクト活動報告～	齋藤 一	○田福 佑也

◎大学院生 ○学部学生 (平成24年3月卒業)

CG・アニメ部門 大賞

# 「ロボすけ」



情報メディア学部 4年

高子 新 千葉 雄斗 岡田 希一

CG・アニメ部門に応募した高子・千葉・岡田チームは「ロボすけ」と題するフル3DCGの作品を制作しました。おもちゃの充電式ロボットがウサギのぬいぐるみに恋をするというストーリーになっており、見終わった後に思わず笑顔になってしまう映像をコンセプトに作成されました。制作には、ロボットの動きを自然に見せるためにモーションキャプチャも使用されています。

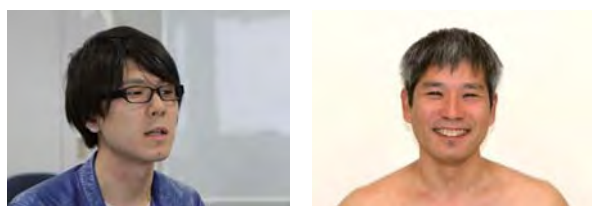
審査では、3DCGの圧倒的な技術力や表現力と、見終わった後に、思わず微笑んでしまうストーリーが高く評価されました。リーダーの高子君は、「チームで制作したためメンバーのそれぞれの考えを統一し、形にしていくのはとても時間がかかりました。自分達の学んできた技術を活用して、受賞という評価をいただいたことはとても嬉しく思います。」と話しています。

# creative frontier 2012 大賞 W 受賞!!



実写部門 大賞

# 「素顔の笑顔」



情報メディア学部 4年

熊谷 賢二 森田 菜月

実写部門に応募した熊谷・森田チームは「素顔の笑顔」と題する、老若男女の無表情の顔（真顔）と笑顔を交互に映し出す作品を制作しました。ここに登場する人たちは、化粧はもちろん服も身につけていません。そんな裸の顔、まさに素顔で笑顔のすばらしさを伝える作品となっています。審査では、何も身にまわっていないインパクトとそこから伝わる飾らない笑顔のすばらしさが高く評価されました。

この作品は映像表現はもちろん、心理学やデザインの知識、音楽表現など細部まで考えられて制作されました。リーダーの熊谷君は、「この作品を制作するうえで多くの人に協力をいただけた方々のためにも、何か結果を残したかった。だから、この賞をいただけて本当に嬉しく思いますし、恩を返せました。」と話しています。

## クリエイティブ フロンティア

クリエイティブ・フロンティアは今年が2回目となる道内の高校生、専門学校生、大学生、大学院生を対象とした映像コンテストです。今年のテーマは「笑顔」で、30秒から1分15秒の映像を制作するというものでした。2月末の企画書（作品のコンセプトや絵コンテなど）の提出から始まり、3月末に作品を提出するというスケジュールで進められました。



## 北海道情報大学から応募した2作品が W 大賞!!



今年は、CG・アニメ部門、実写部門、特殊撮影部門の3部門に分かれていましたが、特殊撮影部門への応募はなく、CG・アニメ部門と実写部門に10校から22作品の応募がありました。本学からは、実写部門に情報メディア学部4年の熊谷賢二君と森田菜月さん（向田ゼミ）のチーム、CG・アニメ部門には同じく情報メディア学部4年の高子新君、岡田希一君、千葉雄斗君（向田ゼミ）のチームがエントリーしました。審査発表・表彰式は、5月13日(日)にNHK札幌放送局で行われ、その模様は5月26日(土)に「クリエイティブ・フロンティア 2012～若者達が映像で伝える「未来」～」(NHK総合)で放送されました。大賞を受賞した2作品は、9月に開催される「札幌国際短編映画祭」でも上映されます。

日頃は3DCGに取り組むメンバー達ですが、熊谷・森田は実写部門への挑戦、高子・千葉・岡田は自分たちの土俵である3DCGで勝負し、両チーム共、見事大賞を獲得しました。

受賞後は、北海道新聞の取材、本学広報室の取材、昼の情報番組「つながる☆きたカフェ」(NHK総合)への生出演など、メンバーは忙しい日々が続きました。テレビ出演など、取材を受ける経験はそうあるものではありません。大変貴重な経験になったと思います。

クリエイティブ・フロンティア2012の応募作品は、NHKのホームページで閲覧できるだけでなく、札幌地下歩行空間でも上映されることになっています。興味のある方はぜひのぞいて下さい。

NHK creative frontier 2012 URL( <http://www.nhkor.jp/sapporo/creative/> )

(誌面デザイン: 情報メディア学部 4年 熊谷 賢二



文責: 情報メディア学部 准教授 向田 茂)





# 学生サポートセンターからのメッセージ

— 粘り強いこう、夏からの就職活動 —

## 就活中の四年生へ

真夏の暑い中、リクルートスーツで就活を頑張っている四年生に先ず伝えたいことは、皆さんの味方である学生サポートセンターをぜひ利用して下さい、ということですよ。

就活は「落ちて当たり前」です。粘り強く（たまには息抜きしながら）折れずに就活を続けること、結局これが内定獲得の一番の秘訣であり、攻略法です。

私たち学生サポートセンターの就職担当は、夏以降も粘り強く就活に取り組んだ先輩たちが、努力をついに実らせ、就職先を見事決めて卒業していくのを数多く目にしています。

これまでの就活を振り返ってヒントが欲しい時は、ぜひ学生サポートセンターに相談に来て下さい。一人で悩まず、誰かに話すことで解決策を見つけたり、動き出すきっかけになったりするものです。



ジョブカフェ北海道の講師から、就活中の4年生を対象に、面接の基本編・実践編、企業研究、自己分析など就活のおさらいを行って頂きました。

## 未来の就活生の皆さんへ

昨年からの就活のスタート時期に変化が訪れています。今年の四年生は、マイナビやリクナビ等の就職サイトでのエントリーが、これまでより二カ月遅れの12月から開始となり、「短期決戦型」等と評され話題になりました。現三年生、大学院一年生を含む14年春以降に卒業予定の学生は、

更に就活スケジュールに変動があり、道内での就活解禁時期が早まることに決まりました。

今年、道内の私立大は再来年春卒業予定者から、これまでより二カ月前倒しの12月から就活を解禁するという方針を決めました。この影響で、毎年2月からスタートしていた道内の合同企業説明会は12月から開催となり、これはつまり、全国の大学生と同じ時期に就活開始となることを意味しています。

就活時期が早まるということは、企業との接触が早くから図れるといったメリットはありますが、一方、自己分析、業界・企業研究、就職試験対策といった基本的な準備をそれまでにきちんとしておかないと、あつという間に就活本番を迎えてしまい、思うような結果が出せない可能性も考えられます。

世の中にどんな仕事があるのか、どんな仕事に興味があるのか、一度考えてみましょう。学生サポートセンターの就職コーナーには、就活に役立つDSソフトや就活関連本を取り揃えています！ぜひ一度足を運んでみて下さい。



3年生・院1年生対象のキャリアサポート風景。この日の講師は櫻井照士先生！

# 大学説明会、企業・病院説明会 開催

## 北海道情報大学 大学説明会

平成24年7月18日(水)に、京王プラザホテル札幌において、「北海道情報大学 大学説明会」を開催しました。

この説明会は、医療機関、民間企業、高校関係者を対象に、本学が来春実施する改組改編の骨子、また新たに開設する学部及びコースについて、概要をご理解いただくことを目的として開催しました。また、学生からの研究発表や学生活動の発表、ポスターセッション等も合わせて行い、それらの発表を通じて、本学の教育研究の方向性や、その内容を理解していただくことも目的としています。

まず初めに、長谷川 淳学長から挨拶及び大学説明が行われ、大学院経営情報学研究科二年 服部 裕樹君から研究発表、情報メディア学部情報メディア学科四年 近澤潤君から学生活動の紹介、最後に中居 聡土常務理事から改組改編の説明が行われました。情報交換会会場では約五十名の学生に協力してもらいポスターセッションを実施、参加者の方々に、学生活動についての話を学生から直接伺って頂きました。



研究発表・学生活動の紹介

ポスターセッション



## 北海道情報大学 企業・病院説明会

大学説明会と同日に、就職活動中の学生を対象とした「企業・病院説明会」を開催しました。

説明会は合同説明会形式で、平成25年3月に卒業予定の学生が企業、病院のブースを訪問し、概要や特色、求人内容や採用日程等を伺うという形で行われました。当日は十八団体に参加して頂きました。



企業・病院説明会

# メディアデザイン展 Media Design Exhibition 2012

## 開催決定!

開催日時 2013年2月19日～2月24日

開催場所 大丸藤井セントラル 7F スカイホール

### メディアデザイン展とは?

「メディアデザイン展(通称 MD 展)」とは毎年2月中旬に札幌で行っている本学情報メディア学部の卒業研究や授業課題、プロジェクトを中心とした展示会です。

毎年2月に教員、学生によって選ばれた卒業研究・制作や各種演習の優秀作品、カレンダープロジェクト等の様々なプロジェクトの展示を行っています。



### 活動内容について

活動は、デザイン班、装飾班、広報班に分かれて行います。

常日頃から会議を行ってより良いメディアデザイン展にしていこうと活動しています。

#### デザイン班

パンフレット、キャプション(作品説明のカード)、広報活動で使用するはがき、ポスターなどのデザイン、印刷するまでの作業を中心に行います。

#### 装飾班

会場をキレイに飾る装飾品、大道具、小道具などの会場に必要なものの制作、管理などを中心に行います。

#### 広報班

はがきやポスターを置いていただけるようにギャラリーなどに配布します。展示期間中、Ustreamを使った配信やWebサイトの作成、運用も行います。

## スタッフ募集!

<http://mccprj1.do.johodai.ac.jp/mde/>



学外の方と接したり、学年関係なく作業を行うので普段と違う経験ができます。個人での制作ではなく、教員や先輩と関わりながら制作していくので、色々な知識を得ることも可能です。みんなで楽しく活動しませんか?

興味・質問がある方は、[hiumde@gmail.com](mailto:hiumde@gmail.com) (担当 3年 名越)

まで連絡をお願いします。件名を「MD展について」とご記入下さい。



## ●「ブックハンティング2012を実施しました」

今年で4年目となる「ブックハンティング」。みなさんもう覚えて頂けましたか？ ブックハンティングは学生が書店で本を手にとって、内容を確認しながら図書館に所蔵する本を選ぶ企画です。

本年度は5月26日(土)に午前の部、午後の部の2回に分けて実施いたしました。参加者は午前11名、午後7名、合計18名でした。購入した本の合計冊数は234冊でした。



今回のブックハンティングで購入した本は、

10月31日(水)まで、図書館4階に展示しています。

ブックハンティングで購入した本には、選定者によるお薦めコメントのPOPを付けて展示したいと考えていますが、残念ながらまだ実現には至っていません。参加者のみなさん、お気に入りの本を紹介してみませんか？ 10月中旬くらいまで受け付けています。ブックハンティング参加と合わせて、ぜひこちらもどうぞよろしくお願いいたします。



## ●「図書館賞応募要領セミナーを開催しました」

7月12日(木)に図書館4階ラーニング・コモンズを会場として、図書館賞への応募を考えている皆さんのために、図書館賞応募要領セミナーを開催いたしました。

図書館賞審査委員長の立花図書館長と図書館賞審査委員の田中里実先生のお二人から図書館賞の目的や評価のポイント、読書感想文、小論文の書き方などを解りやすくお話しいただきました。

このセミナーの様子は図書館HPから動画でご覧いただけます。

また、セミナーの中で紹介した図書は9/29(土)まで、図書館4階に展示しています。

これらを参考にすると、文章を書くのは苦手という方でも、きっと良い作品を書くことができます。今年の図書館賞で自分の力を試してみませんか。

第5回(2012年度)北海道情報大学図書館賞の詳細は、図書館HPからご覧いただけます。





この今井ゼミはまだ設立してまもなくゼミ活動も先生と協力して手探り状態で活動しています。その分得られるものは大きいと思います。企業研究に興味がある方や、今井先生の授業に関心を持った方はぜひ今井ゼミに入ってみてはいかがでしょうか。

私達今井ゼミでは、企業研究を主として取り組んでおり「企業の強みを活かした経営戦略の探求」をテーマに日々活動しています。ゼミの時間では前もって調べてきた情報をまとめて発表という形をとっており、日々のゼミで、和気あいあいとした空気の中時には熱い議論を交わしたりします。具体例を挙げると、三年時には四人グループに分かれて花王、アスクルについて約半年間にわたり調査し、自分たちで得た情報をまとめて、自分たちなりの結論を出し発表をしました。この活動で仲間とのコミュニケーションをとり企業研究の手法を学び、分析力がついたと私は思います。また、ゼミ以外の活動で、企業財務という観点から簿記の勉強に励んでいた時期もありました。

そして勉強だけでなく、学内でのイベントの参加やゼミメンバーでの飲み会などを催しております。このゼミは前述した通り、分析力、コミュニケーションの向上に力をいれており、必ず就職活動にも有利に働いてくると思います。現在四年生では卒業論文に向けて活動しております。

山北ゼミってどんなゼミ？ そこで、4年生に訊いてみた。

### 【四年生の感想】

- ◎「プログラムを勉強するには凄くいいゼミです」「Javaに興味ある方集合!!」
- ◎「今までに学んだことを生かしたことを発展して学習することができるゼミです」「親しみやすい雰囲気であり、互いが成長し合えるゼミです」
- ◎「とても優しい先生で、楽しく学べるゼミです」「和気あいあいとして楽しいゼミです」
- ◎「山北ゼミを一言で言うのと、のんびりしている」

### 【担当教員のつぶやき】

- ↓ データも面白いんじゃないかのお。まあ、プログラミングは基本だし頑張ってもらおう。
- ↓ いやいや、まだまだ発展なんぞしとらんぞ。もっと発展させて、成長して欲しいのじゃが。
- ↓ 最初に出てくる言葉が「楽しい」というのは好印象なことじゃないな。だが待てよ。問題は何が「楽しい」かってことじゃ。学ぶこと、創造していくことが楽しいのならないんじゃないか…。
- ↓ おいおい、ゼミナールの時間に安らいでいるとは何事じゃ。わしはちっとも安らいでおらんぞ!

4年生に訊いてみて…。

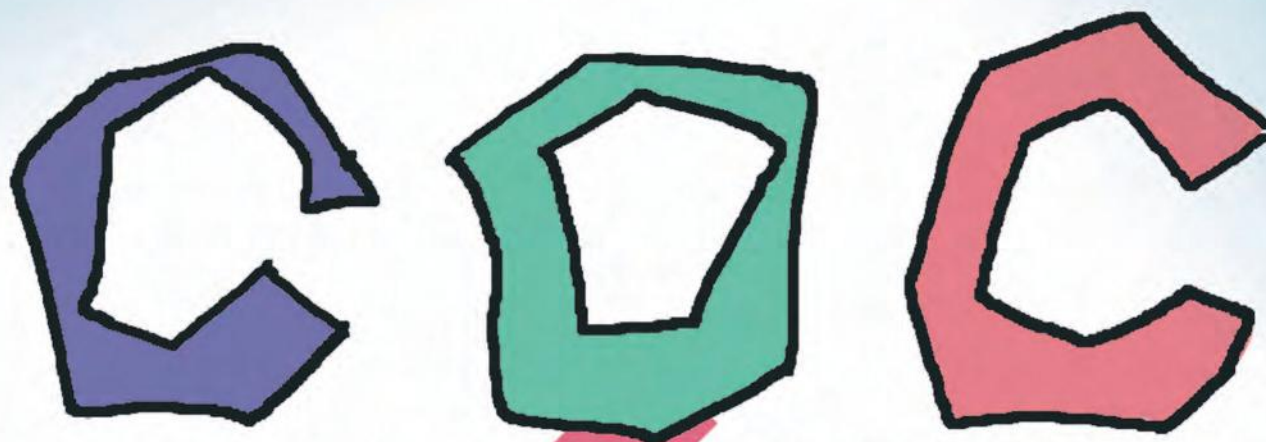
今後は安らぐ暇を与えることなく、データとプログラムを駆使し、それまでに学んだすべてを生かして楽しく学習し、創造することを通して互いに成長していけるゼミナールにすることが目標じゃ。おっと、具体的な内容はシラバスをご覧ください。



答えてくれた学生たち (体育祭、頑張りました)

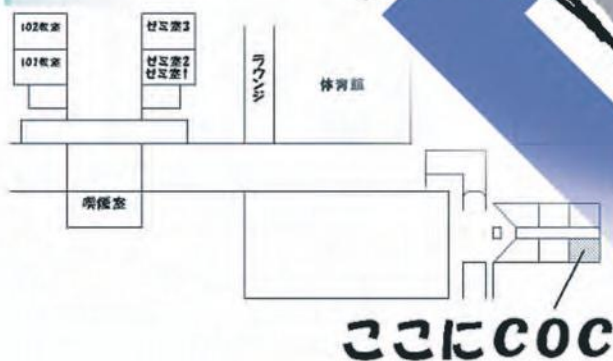
# 楽しい学園生活に

# ジャンピングニー！！



COCではその名の通りコンピュータを使い  
イラスト、ゲーム、DTM、3Dなどの  
創作物を手掛ける活動を主としており  
初心者でも大歓迎！！  
部員たちが懇切丁寧にサポートします。

Computer  
Operating  
Club



COC 公式メールアドレス  
[coc@rmme.do-johodai.ac.jp](mailto:coc@rmme.do-johodai.ac.jp)



## 南京大学 開学百十周年記念式典に参加して

システム情報学科教授 玉置 重俊

私は本学の正式承認を受け、5月20日に開かれた南京大学開学百十周年記念式典に参加できたので、そこでの様子を簡単に記してみたい。私自身は個人的に南京大学と深い関係があり、二十八年程前になるが、私は南京大学に高級進修生として二年間留学して、中国哲学を研究した経験がある。また1999年より、本学と南京大学が学術交流協定を締結し、本学から夏期休暇中に海外教育学院に短期留学生を毎年派遣した経緯もあったため、今年の3月に、私は海外教育学院の程愛民院長より、南京大学開学百十周年の記念式典に招待したいという正式の招聘状を受け取ることができた。

5月18日に私が南京空港に到着すると、出迎える海外教育学院の大学院生が私を専用車に案内し、そのまま南京大学の宿泊施設に向かった。夕方は、留学生宿舎とホテルも兼ねた西苑の高級食堂で、海外教育学

院が特別に招待した、以前の各国の留学生が一堂に集まり、盛大な歓迎会が催された。学長補佐の濮教授が熱烈歓迎の挨拶を述べられ、参加者同士が名刺交換なども行いながら、全員が流暢な中国語で歓談し、本場の美味しい中華料理を頂いた。昔の留学生たちは、もちろん国籍も異なり、年齢も概ね五十〜七十歳になっており、彼らの身分も会社の会長・社長、大学教授、駐中国公使、そして南京大学と関連のある機関や企業の方々がほとんどで、実に多彩であった。

翌日の19日には、海外教育学院が独自に「中国文化と世界」という記念フォーラムを開いたので、我々はその会議にも参加した。フォーラムの開始前には、全員の集合写真も撮り、午前9時から、中国の著名な大学教授などによる研究発表が始まった。午後にも、中国人教師らの研究発表は続いたが、我々昔の留学生には、別会場で、留



学当時に外交事務室で働いていた元スタッフや退官された教員たちにも面談する機会も用意されていた。私も思いがけず、十年以上会えなかった旧時の先生方と面会できて、極めて感激した。このあたりには、南京大学側のもてなしの温かさと上手さが現

れており、私も今回の記念行事に特別参加できて、本当に幸運だったと痛感した。その日の夕方には、南京の伝統的な繁華街である夫子廟の豪華なホテルで、往年の先生たちや友人たちと親睦会を兼ねた大宴会も始まった。宴会の後は、参加者たちが秦淮河の遊覧船に乗り、南京の夜景を大いに堪能した。

20日は、午前中から、我々は南京郊外の歴史的な名所や建物などを見学し、午後には仙林という南京大学の新キャンパスに到着して、規模が大きく、美的環境も整った新校舎群や近代的な新大型図書館なども、見学できた。南京大学開学百十周年の記念式典は、このキャンパスの大きな体育館で、盛大に挙行された。来場者は、二千人以上にものぼり、会場に用意された大型スクリーンには、世界各国の有名大学からの祝辞や中国内外の著名人やOBやOGからの慶賀メッセージであふれていた。式典そのものは、二時間にも及び、とにかく祝賀ムードの中で、めでたく終了した次第である。

このように、南京大学はもちろん著名な大学であり、古くから外国の留学生との交流を重視して、国際交流活動にも邁進した実績を持つている。本学にも、海外事情(中

国編) という科目では、海外教育学院で中国語研修もできるので、学生諸君は、是非とも、南京大学での短期や長期留学に積極的に挑戦して欲しい。最近では、本学の学生も開拓者魂を失い、海外に出たがらない内向き傾向があるので、本当に残念でならない。とにかく、学生諸君には「百聞は一見に如かず」という名言を噛みしめて、外国事情や異文化を自分の目でしっかりと理解する積極性と行動力を懸命に養成すべきであろう。





# 大学院留学生の学位記授与式

国際交流・留学生支援事務局

室長

今長 豊

平成19年から実施している、中国南京大学と本学との共同事業『IT・日本語クラス』の二期生として平成20年に本学情報メディア学部 of 三年次に編入した留学生の陳敏潔さんは、今年の3月に本学の大学院、経営情報学研究所、第十五期生として修士課程を修了し無事卒業をしました。

昨年の3月11日に、東日本大震災が発生したときは中国の家族や友人から「留学を断念してすぐに帰って来て」と何度も連絡があったようです。それでも陳敏潔さんは初志貫徹して無事に修士課程を修了し学位記を手にすることができました。

陳敏潔さんの努力した四年間の留学生活に敬意を表したいと思います。

そして、難関を突破して中国蘇州の株式会社損害保険ジャパン江蘇支店に就職できたことを祝福します。今後の活躍を期待しています。

学位記授与式で大学院の修了生代表として、陳敏潔(Chen Min Jie チンビンケツ)さんが述べた答辞を紹介します。



## 答 辞

私たち、北海道情報大学、大学院 経営情報学研究所、第十五期生 十二名は、無事に所定の学業を終え、本日、ここに晴れて修士課程修了の日を迎えることができました。

これもひとえに、理事長、学長、副学長、研究科長をはじめとする、教職員の皆様のご指導の賜であると、修了者一同皆様に、心より感謝申し上げます。

本学大学院 経営情報学研究所は、アカウントティング・マネジメント、システムデザイン、クリエイティブメディアの異なる三分野から構成されており、様々な分野の人たちとともに研究活動を行って参りました。

二年間の研究活動の中で、幾度となく困難な課題に直面してきましたが、諸先生方の熱心なご指導によって、研究を完成させることができました。

留学生として入学からの年月を振り返りますと、様々なことが思い出されます。

留学する前に家族や友人達は、日本と中国は昔戦争をしたことや、日本は地震が多いことなどの理由でとても心配していました。

でも、私は子供時代に観て感動したアニメが、日本で制作されていることを知り、日本にあこがれて留学することを決めていました。しかし、日本に来た当初は、周りの日本語についていけなくて、授業を理解することが大変でした。

それでも少しずつ大学生活に慣れ、大学での異文化交流会や宿泊研修などで日本人の友達もでき、野外炊事での共同作業や、ゲーム大会など楽しみながら日本語を学ぶこともできました。また、日本の友人と一緒に深夜まで日本語を勉強したこともありました。こうした努力の成果として修士一年の時、本学の第一回日本語弁論大会で優秀賞をもらうことができました。

確かに家族と離れて外国で一人で生活することは寂しいことでしたが、夏休みは地元の家庭でホームステイを体験したり、お正月休みは大学で餅つき大会に参加したり、日本の年中行事の一端を味わうこともできました。

そんな楽しい留学生活も残すところあと一年となった昨年の3月に、東日本大震災が発生しました。中国のテレビでも、大震災や津波そして原子力発電所の事故のニュースが毎日放送されました。中国にいる家族や友人達はとても心配して、すぐに「帰って来て」と何度も何度も言ってきました。

でも、私たちがいるところは大丈夫だから安心するようにと説得しましたが、なかなか納得してもらうことは大変でした。今でも家族は心配していますが、私は大震災のあったこの日本で留学生生活を過ごしたことは今後の人生において、とても貴重な財産になると信じています。

ここで私事で恐縮ではありますが、中国の家族への言葉をお許し願いたいと思います。私たちの留学生活を支えてくれた両親へ、遠く離れて心配もかけましたが、私たちが迷った時に、アドバイスをくれ、前に向かう勇気を持つことができ、今日の日を迎えることができました。今まで私たちを暖かく見守ってくれて、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、本日お集まりの皆様の今後のご健康とご活躍、並びに本学の益々の発展をお祈りし、修了生一同の感謝の言葉に代えさせていただきます。

平成24年 3月16日

修了生代表

大学院 経営情報学研究所

アカウントティング・マネジメント分野

陳 敏潔

## 南京大学から

### IT・日本語クラス6期生が本学に編入学

国際交流・留学生支援事務室 室長 今長 豊

平成19年から実施している、中国南京大学と本学の間の共同事業『IT・日本語クラス』の六期生十九名が、平成24年4月、晴れて本学情報メディア学部三年次に編入学しました。

この共同事業は、南京大学と本学との協定に基づき、まず南京大学で二年間ITと日本語の基礎を勉強します。

その後、本学情報メディア学部三年次に編入学して二年間、専門科目を修めて本学を卒業し学士の学位を目指すというものです。

彼らは、今年の3月18日に日本へ来ました。昨年3月11日に、東日本大震災が発生して中国でも連日テレビや新聞でつなみや原子力発電所の被害の様子が報道されていました。六期生の彼らは中国の南京大生として一年後の日本での留学生生活を心配していました。学生の中には日本への留学をあきらめて他の外国留学を勧める家族や友人達も多くいたようです。そんな状況下で六期生は、初志貫徹の日本行きを決断しました。彼らの勇気と送り出してくれたご家族のご理解に、敬意を表したいと思います。



震災復興が始まったばかりの日本で留学することは、学生達にとつては貴重な体験となることでしょう。ぜひ、これらの日本での留学生生活を有意義なものにしてもらうことを期待しています。

入学式で留学生代表として钟钰 (Zhong Yu) ちゅうぎ よく)さんが述べた宣誓を紹介いたします。

## 宣誓

私たち、南京大学外国語学院、IT、日本語クラスの19名は、今日、ここに、晴れて北海道情報大学の入学式に参加することができました。この2年間、南京大学で、日本語やITに関する科目を中心に学び、留学するために、中国で短期大学の卒業試験や、日本語能力試験など、さまざまな試験を受けてきました。

本日、この日を迎えることができ、うれしく思います。

2012年の今年、中日両国は国交正常化40周年を迎えます。中日両国は、1972年の国交正常化以来、あらゆる分野において関係を発展させてきました。特に留学生のような青少年の交流は、次世代の中日関係のみならず、中日両方の国民感情改善のためにも極めて重要です。ほかの分野、例えば地方間交流、文化スポーツ交流、観光交流、経済交流など様々な行事が行われることによって中日両国は信頼関係で結ばれています。

昨年3月11日、日本で大きな地震が発生しました。

私たちは『日本が早く復興するように』と祈るとともに、日本で留学することを少し心配していました。しかし、新千歳空港に着き、大学の寮へ向かうバスの窓から見る景色は、眩しい太陽の光に、残雪が輝き、街中の空気は冷たく新鮮でとても美味しく感じました。いつのまにか、中国を離れる時の不安がなくなっていました。

世界中が注目する大災害から復興していく日本で留学できることは、きっと学ぶべきことも、たくさんあると思います。

大学の寮生活が始まって二週間が過ぎました。この二週間、色々な景色を見て、不思議な感じを持ちました、特に雪の積もった森林の大自然の中に先進的な情報技術を学ぶ、近代的な建物の大学が存在していることに驚きとうれしさを感じました。

一日も早く日本の生活に慣れ、多くの友人も作り、IT技術者や、研究者を目指して頑張ります。自分の夢を叶えるために努力をし、これからの留学生生活を、実りあるものにするを、お約束して、留学生代表の言葉と致します。

2012年4月5日 留学生代表 钟钰

# 「第3回 留学生の日本語弁論大会」を終えて

経営情報学部 講師 田中 里実



去る6月16日(土)、「第三回 留学生の日本語弁論大会」が行なわれました。爽やかな夏のはじまりを思わせる土曜の午後、会場は教職員、発表者の先輩、後輩の留学生をはじめ多くの来場者で賑わいました。本大会は留学生の日本語力を向上させ、日本文化への関心を深めてもらうと同時に、教職員及び学生のみなさんに、留学生の日本語力や活動状況、外国人ならではの視点に触れていただくことを目的として開催されています。

発表者は情報メディア学部の学部四年生、二十二名でした。集合時間には、晴れの舞台と意識してか、普段よりも少しフォーマルに装い、緊張した面持ちで続々と四年生があつまってきました。少し早く入室し、会場の空気に慣れながら、控え席で原稿の最終チェックを行なっている学生もの姿も見られました。

発表の持ち時間は五分間、その後審査員との質疑応答という形式で行なわれました。今年から、審査基準の中で「原稿を読まないこと」の比重が高くなったこともあり、休み時間に会場の外で友だちを相手に暗唱の練習をしたり、先輩にアドバイスをもらったりと直前まで準備が続けられていました。司会進行係の国際交流・留学生支援室の小黒さんに名前を呼ばれると、それ

ぞれがゼミの先生や友人の声援を受けて登壇し、真剣に準備した弁論を披露しました。

最優秀賞は「お金では買えない幸福」をテーマに発表した李萌萌さん(島田ゼミ)でした。大勢の聴衆の前で堂々と、身振り手振りを交えながら、「お金」と「幸福」の複雑な関係について語り、質疑応答では「もし私が(弁論大会の最優秀賞の副賞の)三万円をもらったら」とユーモアを交えた答えで会場を大いに沸かせました。優秀賞は陳轟さん(テーマ「五月病」、島田ゼミ)と、朱睿奕さん(テーマ「満一歳占い」、多田ゼミ)、申珮さん(テーマ「言行一致の影響力」、川上ゼミ)、努力賞は尹波さん(テーマ「南極大陸―日本人の夢」、藤井ゼミ)、王欣語さん(テーマ「人間関係」、大島ゼミ)、欧文思さん(テーマ「コミックマーケットについて」、守ゼミ)、楊帆さん(テーマ「前へ進め!」、向田ゼミ)、严一晨さん(テーマ「地球を守るために低酸素の生活へ」、安田ゼミ)でした。

審査では、原稿に頼らずに発表した学生が高く評価されたほか、「コミックマーケットについて」という日本ならではの体験をきっかけに自分の意識が変わったと語った欧文思さんの発表も、大きなテーマが取り上げられがちな弁論大会の中で、自らの実感を伴った内容であるとして、評価され



ました。弁論の中で語られた「日常の変化を恐れないこと」という言葉は、多くの人に響くものがあったのではないかと思います。また、他にもテーマについては、中国の伝統行事について語り、優秀賞を受賞した朱睿奕さんの「満一歳占い」、惜しくも受賞は逃しましたが、自らの家族の系譜の再編集過程の一端に携わった体験を語った徐厚哲さん（向田ゼミ）の「中国人でも知らない中国の伝統行事」は、中国固有の文化を紹介したものとして審査の場で話題となりました。同じく受賞は逃しましたが、陳駿さん（安田ゼミ）の「情報と人間社会」も、本学における学習成果を生かし、理路整然と語っていたことが評価されていました。

表彰式は、7月19日(木)の昼休みに行なわれ、教職員、後輩の留学生、日本人学生などが見守るなか、入賞者には長谷川学長より、賞状と盾、副賞の奨学金が授与されました。その後は学長を囲んでの昼食会も開かれ、九名の留学生は、弁論大会当日のDVDを見ながら、「これ（弁論大会の映像）は後輩の励みにもなるね」との学長のお言葉にはにかみながらも誇らしげな様子でした。

本学には現在七十名近くの留学生が在籍しており、ここ数年は一年次から入学し、日本人学生と同じように単位を修得する学生も増えてきました。筆者は昨年度、今回の弁論大会に参加した学部四年生の日本語の講義を担当しましたが、日本語の面でも、精神的な面でも一年間の成長ぶりは大きく、驚かされました。今後、留学生と関わる教職員、日本人学生が増えるなかで、留学生の「いま」をつたえる弁論大会は、国際交流や相互理解を促進させるためのひとつのチャンネルとなるのではないかと思います。次回も、今回同様に多



大勢の聴衆が発表に聴き入りました

くの方に留学生の活動への関心を持っていただき、ご来場いただけることを心から祈っております。

# 留学生、日帰りバスハイクの報告

(旭山動物園、美瑛、富良野)

国際交流・留学生支援事務局

室長 今長 豊



平成24年7月7日(土)、外国人留学生委員会主催行事として、日帰りバスハイクを行いました。行先は北海道のみならず日本の観光地としても人気の高い旭山動物園、美瑛、富良野を観光しました。留学生、異文化交流会の日本人学生、引率教職員の総勢約八十名が二台の大型貸切バスで移動しました。

天候にも恵まれバスは順調に走り、途中休憩で立ち寄った高速道砂川サービスエリアでは地域の特産物販売のイベントが開催されていました。そこで特別に展示されていた紋別の流水塊にも触れることができました。

最初の目的地である旭山動物園には、ほぼ予定通り10時に着きました。円柱水槽を泳ぐあざらし、水中トンネルを飛ぶように泳ぐペンギン、空中散歩をするオランウータン、泳ぐ姿が水中からの視点で観察できるホツキョク熊など、どれもユニークで工夫のされた施設に感心しながら、動物を観察することができました。

動物園に到着したときはまだ、他の団体客はそれほど多くはなかったのですが、一時間半後に

私たちが退園するときには入れ違いに外国からの団体客も大勢入園していました。

昼食後は最近人気スポットとして観光客が増えたApple社として観光客が増えた「美瑛白金青い池」を見学しました。

この青い池は昭和63年12月に十勝岳が噴火した後、北海道開発局が火山泥流を貯める施設として造ったブロックえん堤に水が溜まり、近くの白金温泉地区からアルミニウムを含んだ湧き水が流れ込んで太陽光と反応することで青く見えると言われているそうです。

最後の目的地である中富良野、ファーム富田に到着したのは午後3時でここでは約一時間の見学でしたが、ラベンダーなど色鮮やかな草花が広大な丘陵地に整然と美しく咲き、北海道の大自然を実感できる感動的な景色の中に全身で浸ることができました。



昨年3月に発生した東日本大震災から一年半近くが経過し、道内の観光地も以前に比べ観光客も少しずつ戻ってきていると聞いています。今回、日帰りで短い時間でしたがそれぞれの観光地で大型バスやレンタカーなど多くの外国人観光客も見かけました。

留学生たちも日頃、学内では見せることが少ないくつろいだ表情で楽しい一日を過ごしていました。大震災の影響を遠く離れた中国で心配している、ご家族や友人の皆様への元氣な笑顔を届けることで少しでも安心していただき日本での留学を応援してもらえると信じています。

引率していただいた教職員の皆様ありがとうございました。



昨年、七カ月かけて一人でアジアを縦断しました。訪れた国は東南アジアであるタイ、マレーシア、ラオス、ベトナム、シンガポールと中国、ネパールの七か国です。「東南アジア一人旅」を旅行しようと考えた理由のひとつは、世界を飛び回っている知人や海外留学経験のある兄に憧れたからです。どんな問題に面しても決してぶれることのない堂々とした振る舞いや、国籍関係なく積極的に話すことのできるコミュニケーション能力を魅力に感じ、私も彼らの一員になりたいからでした。そこで、二年次終了と同時に一年間休学することを決めました。

数か月の旅には資金が必要です。さらに、パスポートやビザの取得、行き先やおまかなルートも決めなければなりません。バイトを掛け持ちし昼夜働きながらもそれらを並行して行う必要があります。

今思えば、この時から旅は始まっていたのだと思います。これらのハードワークに耐えひとつひとつやり遂げていった結果、無事に六十万円貯めるという目標を達成することができました。

そしてようやく一人旅が始まります。羽田空港発 中国北京行き。大人一人、片道券。シートに座ってシートベルトを締めても実感は湧きません。隣の席の中国在住の日本の方と仲良くなり、何か困ったことがあれば電話するようにと連絡先まで教えてもらい、幸先が良いから全てうまくいく！と楽観的に考えるようにしました。

# 東南アジア 一人旅

医療情報学科 岡本 敦史

上リタイ・ベトナム・オランダの方たちと、下リラオスの村

そして19時47分、北京着。自分の置かれている状況を見て、血の気が引きました。ここがどこなのかも分からず、どこに行けばいいのかも分かりません。知り合いはいませなし、さらに日本語がどこにもありません。絶望感でいっぱいになり、このまま日本に引き返そうと思いましたが、どちらにせよ宿を見つけなくてはならず、空港を彷徨いました。

この挑戦の醍醐味は全て自分発で物事を決めることにあります。つまり食事やベットの確保、次に向かう街や移動手段など全て自分で考え、情報を集め、実行するということです。そしてこれは自分にとってとんでもない課題なのだということとをこの時、痛感しました。

まず空港から都心部に向かうための交通手段を無料のパンフレットから見つけ、あとは行きたい場所を指してなんとか地下鉄のチケットを手に入れ、街に来ることができました。ですが、ここで思ったより言葉の壁が厚いことを思い知ります。空港では通じた片言の英語がまったく通じないのです。単語すらも通じず困り果てました。さらに、中国のガイドブックだけは持ってきていなかったの(これが旅中、最大のミス)宿がどこにあるかも分からないと分かると掛け合ってくれません。

仕方ないので、歩くことにしました。三時間ほど歩き続け、ようやく見つけた「酒店」という文字に飛び込み、ベッドにありつくことができました。深夜2時を過ぎていました。さらに中国では不運が続きます。上海で日本円にして二万円ほどだまし取られてしまいました。詳細は省きますが、仲良くなった(と思っていただけ)中国人四人にぼったくりの喫茶店に案内されたのです。

一カ月滞在可能なビザを持っているにも関わらず、結局一週間で中国を出国しました。良い思い出は万里の長城を観光したことです。ですが、その後ベトナムに入国し、タイ、ラオスと訪れましたがそこからは全てが一変しました。

まず、友達がたくさん増えました。毎夜、知り合った方たちとお酒を飲みながらこれからの人生や将来の夢について話し合いました。外国の方の友達もたくさんできたので、仲良くなった現地の方の家に招待されその街の暮らしに触



れることができ、今までの人生にない貴重な体験をすることができました。

一人旅を続けていると、一番楽しいのは人と話すことであると気付きます。人と人との繋がりが人生の大部分であり、それが面白いのだと感じるようになりました。そこに気付けたからこそいろいろなチャンスに巡り合い、掴むことで刺激的な毎日を経験することができましたのだと思います。

他にも、さまざまなイベントに挑戦しました。タイでの初めての体験、象の背中に乗る、タイ人に恋をしフラれる、マレーシアでの長期ホームステイ、毎朝のヨガ、日本語教室の臨時先生、電気の通っていない村での生活、ヒマラヤ山脈の登山、これらは私の価値観を変えるような素晴らしい体験であり、ある程度のハプニングには動じない精神力も身につける事が出来ました。

私は海外へ行ってみる事を強く勧めます。いい意味で常識を覆されるからです。そして周りに知り合いがいらないということは、あらゆるストレスから解放されるということでもあります。仕事に行く必要もありません。日本語がないので周りの言葉に気を取られなくなり、自分の世界に没頭することが出来ます。普段感じていないことや、あらゆる考えが溢れ出てきて自分と対話することができるといっ点も旅の魅力だと思います。国内ではダメだ、ということでは全くありませんが、一度は発展途上国のパワフルさを肌で感じてほしいと思います。

お金とパスポートさえあれば、誰でも行くことができます。一カ月でも一週間でも構いません。異国の地を歩いてみてください。

旅に関する質問など受け付けます！ 連絡待ってます！  
Facebook: new\_sensation\_0208@gmail.com

上リヒマラヤ山脈トレッキング、下リマンゴーとマンゴーシェイク

# 情報大学 公開講座開始

【問い合わせ・申込先】 北海道情報大学 教務課 (公開講座担当)

電話 : 011-385-4427 (公開講座直通)

ファクス : 011-385-4433 (FAX番号が変更になりました)

E-MAIL : hiukouza@do-johodai.ac.jp

URL : <http://www.do-johodai.ac.jp/kouza/kouza.html>

【申込方法】 往復はがき・ファクス・E-MAILのいずれかで、お申込みください。

※本年度より聞き間違い等防止のため、電話での受付は行いませんので、あしからずご了承ください。

【受付時間】 月～金曜日 / 9時00分～17時45分 (土曜・日曜・祝日 / 休業)

【夏期休業】 8月8日 (水)～8月20日 (月)

講座日程	開講時間	回数	受講料	対象	定員	申込期間
5月12日 (土)	10:00～17:30 (休憩1時間30分)	全1回	1,000円	大学生・一般	15名	4月16日 (月)～ 4月27日 (金)
5月17日 (木), 8月2日 (木)	18:00～19:30	全2回	1,000円	一般	30名	4月16日 (月)～ 4月27日 (金)
5月24日 (木), 31日 (木), 6月7日 (木), 14日 (木)	18:30～20:00	全4回	1,000円	一般	30名	5月7日 (月)～ 5月18日 (金)
5月26日 (土), 6月2日 (土)	13:30～15:30	全2回	1,000円	一般	30名	5月7日 (月)～ 5月18日 (金)
6月9日 (土), 16日 (土), 23日 (土)	13:30～15:00	全3回	1,000円	中学生以上 一般	30名	5月14日 (月)～ 5月25日 (金)
6月19日 (火), 26日 (火)	18:00～19:30	全2回	1,000円	一般	30名	5月14日 (月)～ 5月25日 (金)
6月28日 (木), 7月5日 (木), 12日 (木), 19日 (木), 26日 (木)	18:30～20:30	全5回	3,000円	一般	30名	6月11日 (月)～ 6月22日 (金)
7月7日 (土)	10:00～17:30 (休憩1時間30分)	全1回	1,000円	大学生・一般	15名	6月11日 (月)～ 6月22日 (金)
7月21日 (土), 9月8日 (土), 12月8日 (土)	13:30～15:30	全3回	3,000円	一般	20名	6月25日 (月)～ 7月6日 (金)
7月24日 (火), 9月11日 (火), 12月11日 (火)	18:30～20:30	全3回	3,000円	一般	20名	6月25日 (月)～ 7月6日 (金)
8月8日 (水), 9日 (木)	9:30～16:30 (昼休憩1時間)	全2回	無料	小学校3年生 ～小学校6年生	10名	7月17日 (火)～ 7月27日 (金)
8月11日 (土)	13:00～17:30	全1回	無料	小学校高学年 とその保護者	15組 (各組最 大6名まで)	7月17日 (火)～ 7月27日 (金)
8月23日 (木), 30日 (木), 9月6日 (木), 13日 (木)	18:30～20:00	全4回	1,000円	一般	30名	7月23日 (月)～ 8月3日 (金)
9月18日 (火), 25日 (火), 10月2日 (火), 9日 (火)	18:30～20:00	全4回	1,000円	一般	30名	8月27日 (月)～ 9月7日 (金)
10月4日 (木)	18:00～19:30	全1回	500円	一般	30名	9月10日 (月)～ 9月21日 (金)
10月11日 (木), 18日 (木), 25日 (木), 11月1日 (木)	18:30～20:30	全4回	3,000円	一般	30名	9月18日 (火)～ 9月28日 (金)
10月13日 (土), 20日 (土), 27日 (土)	13:30～15:30	全3回	3,000円	高校生以上 一般	30名	9月18日 (火)～ 9月28日 (金)
10月31日 (水)	18:00～19:30	全1回	500円	一般	30名	10月9日 (火)～ 10月19日 (金)
11月5日 (月), 12日 (月), 19日 (月), 26日 (月)	18:30～20:00	全4回	1,000円	一般	30名	10月15日 (月)～ 10月26日 (金)
11月10日 (土), 17日 (土), 24日 (土)	13:30～15:30	全3回	1,000円	一般	20名	10月15日 (月)～ 10月26日 (金)
11月15日 (木), 22日 (木), 29日 (木), 12月6日 (木)	18:30～20:30	全4回	3,000円	一般	30名	10月15日 (月)～ 10月26日 (金)
12月1日 (土)	10:00～17:30 (休憩1時間30分)	全1回	1,000円	大学生・一般	15名	11月5日 (月)～ 11月16日 (金)

本学では、社会教育活動の一環として、本年度も江別市とその近郊にお住まいの皆様を対象とした公開講座を開講しております。

本学在学生・卒業生・ご父兄の方もご参加いただけますので、興味のある方は、本学教務課までお問い合わせください。

なお、小学生が対象となっている講座以外はすべて有料となっておりますことをご了承ください。

皆様のご参加をお待ちしております。

No.	講 座 名	場 所	講 師
1	人間関係が良くなる教育カウンセリング1日体験講座～構成的グループエンカウンターを学ぶ(春期)	札幌サテライト	本学教授・中村正巳
2	「医と食の融合」～高齢化に負けない健康維持のために～(地域イノベーション戦略北大R&BP・本学合同公開講座)	札幌サテライト	本学教授・西平順
3	ブランドマネジメントを学ぼう	札幌サテライト	本学教授・坂本英樹
4	初めてのデジタルカメラ	札幌サテライト	本学非常勤講師・北島優
5	果たして未来は原理的に予言可能か？ ー現代科学の視点からー	札幌サテライト	本学准教授・豊田規人
6	生活習慣病と遺伝子ーあなたの体質は遺伝子でどこまで分かるかー	札幌サテライト	本学教授・中林秀和
7	パソコン入門	本学	本学准教授・広奥暢 本学非常勤講師・北島優
8	人間関係が良くなる教育カウンセリング1日体験講座～構成的グループエンカウンターを学ぶ(夏期)	札幌サテライト	本学教授・中村正巳
9	【初級編】パソコンで季節のグリーティングカードを作しましょう！	本学	本学教授・川上正博
10	【中級編】パソコンで季節のグリーティングカードを作しましょう！	本学	本学教授・川上正博
11	こどもビデオ編集体験講座	本学	本学准教授・向田茂、安田光孝
12	夏休み自由研究教室～ロボットで算数・理科を学ぼう～	本学	本学准教授・棚橋二朗
13	学習のモチベーション～学ぶ意欲の科学～	札幌サテライト	本学准教授・金間大介
14	身近なIT端末を知ろう(IT閑話⑥)	札幌サテライト	本学教授・中村忠之
15	知って減らそう心臓病	札幌サテライト	本学教授・佐藤浩樹
16	フォトショップ始めの一步 初級編	本学	本学非常勤講師・北島優
17	JavaScriptを用いた初級プログラミング	本学	本学講師・柳信一
18	顔の情報処理:顔で心伝心	札幌サテライト	本学准教授・向田茂
19	経営学ケーススタディ	札幌サテライト	本学教授・坂本英樹
20	Welcome to the World of English!!	本学	本学教授・竹内典彦 本学准教授・チャールズ・マクラータ
21	レベルアップ! フォトショップ中級編	本学	本学非常勤講師・北島優
22	人間関係が良くなる教育カウンセリング1日体験講座～構成的グループエンカウンターを学ぶ(冬期)	札幌サテライト	本学教授・中村正巳



# 学校法人 電子開発学園 平成23年度決算の概要

平成23年度決算が理事会ならびに評議員会で承認されましたので、その概要についてお知らせ致します。

学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「消費収支計算書」、財政状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条および学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成したものです。

## ① 資金収支計算書

平成23年度の収支状況を資金収支計算書により資金の流れでみると、収入は、国庫補助金収入および地方公共団体補助金収入、有価証券の期限前償還による資産売却収入が増加し、前年度より繰越された支払資金の3,688百万円を加えると、収入合計は8,754百万円となり、予算対比172百万円の収入増となりました。

支出については、教育研究経費と管理経費において、予算対比106百万円の支出削減に努めましたが、設備関係・資産運用支出等が予算対比43百万円増加し、次年度への繰越支払資金は4,066百万円で予算対比300百万円の増加となりました。

## ② 消費収支計算書

平成23年度の消費収支計算書により予算と決算を比較すると、収入は手数料、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入（退職給与引当金戻入額）等が予算を上回り、帰属収入合計は4,384百万円で予算対比87百万円の増加となりました。基本金組入額はeDCタワーのパソコン等設備及び受託研究用機器備品購入、機器備品の除却で103百万円となり、予算対比50百万円の減少となりました。消費収入合計は帰属収入合計から基本金組入額を差引いて4,281百万円で予算対比137百万円の収入増となりました。

支出については、人件費が1,904百万円で予算対比6百万円の減少、教育研究経費・管理経費は2,184百万円で予算対比101百万円の減少、資産処分差額は6百万円で予算対比3百万円の減少、消費支出合計は4,146百万円で、予算対比118百万円の減少となりました。

以上により、当年度消費収入超過額は135百万円、翌年度繰越消費収入超過額は799百万円となりました。

## ③ 貸借対照表

平成23年度末における資産の部合計は14,559百万円で前年度末対比267百万円減少しました。その内訳は固定資産が586百万円（主に有価証券の期限前償還、長期預金の満期）減少し、流動資産が320百万円（主に現金預金）増加しました。

負債の部合計では3,459百万円で前年度末対比504百万円減少しました。その内訳は固定負債が98百万円（主にeDCタワーの長期借入金）、流動負債が406百万円（主に未払金）減少しました。

基本金の部合計は10,301百万円で前年度末対比103百万円増加しました。その内訳は校舎・機器備品・図書・教育研究用ソフトウェア等の固定資産のうち継続的に保持すると判断されるものの額を示す第1号基本金への組入額が89百万円、恒常的に保持すべき資金の額を示す第4号基本金の組入額が14百万円となっています。

今日、私学を取り巻く環境は、学齢人口の減少等により一段と厳しくなっていますが、本学園は、健全な財務体質を維持するために教職員が一致結束して、特色のある教育活動や経費節減に取り組み、教育改革および経営改革を推進する所存です。

①資金収支計算書 平成23年4月1日～平成24年3月31日

収入の部 (単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,608,164,000	3,608,758,263	△ 594,263
手数料収入	35,288,000	36,674,228	△ 1,386,228
寄付金収入	6,244,000	6,594,370	△ 350,370
補助金収入	323,231,000	383,295,417	△ 60,064,417
国庫補助金収入	293,773,000	350,440,000	△ 56,667,000
地方公共団体補助金収入	29,458,000	32,855,417	△ 3,397,417
資産運用収入	33,461,000	36,208,917	△ 2,747,917
資産売却収入	20,000	100,020,090	△ 100,000,090
事業収入	227,351,000	228,910,752	△ 1,559,752
雑収入	23,782,000	24,154,944	△ 372,944
前受金収入	1,676,650,000	1,651,294,481	25,355,519
その他の収入	634,145,000	676,055,704	△ 41,910,704
資金収入調整勘定	△ 1,674,556,000	△ 1,686,014,202	11,458,202
前年度繰越支払資金	3,688,142,000	3,688,142,502	△ 502
収入の部合計	8,581,922,000	8,754,095,466	△ 172,173,466

支出の部 (単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,858,326,000	1,856,834,454	1,491,546
教育研究経費支出	1,290,503,000	1,211,367,317	79,135,683
管理経費支出	682,037,000	655,518,105	26,518,895
借入金等利息支出	18,852,000	18,851,435	565
借入金等返済支出	59,811,000	59,810,000	1,000
施設関係支出	179,231,000	174,927,029	4,303,971
設備関係支出	157,715,000	172,139,484	△ 14,424,484
資産運用支出	861,000	29,810,681	△ 28,949,681
その他の支出	1,001,486,000	1,001,852,436	△ 366,436
資金支出調整勘定	△ 433,264,000	△ 493,471,766	60,207,766
次年度繰越支払資金	3,766,364,000	4,066,456,291	△ 300,092,291
支出の部合計	8,581,922,000	8,754,095,466	△ 172,173,466

②消費収支計算書 平成23年4月1日～平成24年3月31日

消費収入の部 (単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,608,164,000	3,608,758,263	△ 594,263
手数料	35,288,000	36,674,228	△ 1,386,228
寄付金	8,689,000	9,564,595	△ 875,595
補助金	323,231,000	383,295,417	△ 60,064,417
国庫補助金	293,773,000	350,440,000	△ 56,667,000
地方公共団体補助金	29,458,000	32,855,417	△ 3,397,417
資産運用収入	33,461,000	36,208,917	△ 2,747,917
事業収入	227,351,000	228,910,752	△ 1,559,752
雑収入	60,501,000	80,696,264	△ 20,195,264
帰属収入合計	4,296,685,000	4,384,108,436	△ 87,423,436
基本金組入額合計	△ 152,277,000	△ 102,613,295	△ 49,663,705
消費収入の部合計	4,144,408,000	4,281,495,141	△ 137,087,141

消費支出の部 (単位：円)

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,909,526,000	1,903,673,592	5,852,408
教育研究経費	1,547,360,000	1,471,813,586	75,546,414
管理経費	737,832,000	712,077,581	25,754,419
借入金等利息	18,852,000	18,851,435	565
資産処分差額	9,008,000	6,135,376	2,872,624
徴収不能引当金繰入額	6,743,000	7,174,000	△ 431,000
徴収不能額	34,808,000	26,695,300	8,112,700
消費支出の部合計	4,264,129,000	4,146,420,870	117,708,130
当年度消費収入超過額		135,074,271	
当年度消費支出超過額	119,721,000		
前年度繰越消費収入超過額	664,005,000	664,005,598	
基本金取崩額	21,724,000	0	
翌年度繰越消費収入超過額	566,008,000	799,079,869	

③貸借対照表 平成24年3月31日

資産の部 (単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	10,377,688,334	10,964,054,812	△ 586,366,478
有形固定資産	7,542,266,914	7,518,214,577	24,052,337
土地	1,725,516,149	1,725,516,149	0
建物	4,965,698,124	4,981,988,419	△ 16,290,295
教育研究用機器備品	298,430,605	242,035,365	56,395,240
その他の機器備品	49,540,059	41,084,868	8,455,191
図書	407,929,895	401,426,183	6,503,712
建設仮勘定	0	14,700,000	△ 14,700,000
その他の有形固定資産	95,152,082	111,463,593	△ 16,311,511
その他の固定資産	2,835,421,420	3,445,840,235	△ 610,418,815
教育研究用ソフトウェア	43,169,283	37,779,399	5,389,884
その他のソフトウェア	5,261,497	6,994,322	△ 1,732,825
有価証券	2,229,126,000	2,329,126,000	△ 100,000,000
その他の固定資産	557,864,640	1,071,940,514	△ 514,075,874
流動資産	4,181,674,466	3,861,853,659	319,820,807
現金預金	4,066,456,291	3,688,142,502	378,313,789
未収入金	47,170,191	109,751,283	△ 62,581,092
その他の流動資産	68,047,984	63,959,874	4,088,110
資産の部合計	14,559,362,800	14,825,908,471	△ 266,545,671

負債の部 (単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	1,241,032,309	1,338,938,871	△ 97,906,562
長期借入金	1,125,150,000	1,226,740,000	△ 101,590,000
退職給与引当金	37,143,465	46,845,647	△ 9,702,182
長期未払金	78,738,844	65,353,224	13,385,620
流動負債	2,217,877,901	2,624,204,576	△ 406,326,675
短期借入金	101,590,000	59,810,000	41,780,000
未払金	435,470,115	925,413,526	△ 489,943,411
前受金	1,651,294,481	1,607,434,531	43,859,950
預り金	29,523,305	31,546,519	△ 2,023,214
負債の部合計	3,458,910,210	3,963,143,447	△ 504,233,237

基本金の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	9,996,372,721	9,907,759,426	88,613,295
第4号基本金	305,000,000	291,000,000	14,000,000
基本金の部合計	10,301,372,721	10,198,759,426	102,613,295

消費収支差額の部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	799,079,869	664,005,598	135,074,271
消費収支差額の部合計	799,079,869	664,005,598	135,074,271
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	14,559,362,800	14,825,908,471	△ 266,545,671

# 大学主要行事等 <4月2日~7月20日>

## ◆◆ 教職員の動向 ◆◆

なし

## ◆◆ 主要行事 ◆◆

### ◇法人本部◇

5月10日 理事会・評議員会  
5月14日~5月18日 有限責任監査法人トーマツ「平成23年度決算監査」

### ◇大学◇

4月 5日 入学式  
6日~11日 スタートアッププログラム  
6日~7日 新入生宿泊研修  
12日 前期開講  
13日 経営情報学部教授会  
20日 情報メディア学部教授会  
27日 全学教授会  
28日 月曜授業実施日  
5月 2日 金曜授業実施日  
11日 経営情報学部教授会  
12日 水曜授業実施日  
20日 情報メディア学部教授会  
29日 学内共同研究成果報告会  
29日~31日 春の食生活改善運動  
30日 保護者の会役員会  
6月 8日 経営情報学部教授会  
9日 酪農学園大学交換授業  
10日 創立記念日  
11日~15日 授業参観週間  
16日 留学生日本語弁論大会  
13日~17日 授業参観週間  
22日~23日 体育祭  
29日 情報メディア学部教授会  
7月 3日 国外研修報告会  
7日 留学生日帰りバスハイク  
13日 経営情報学部教授会  
14日 月曜授業実施日  
18日 企業・病院説明会、大学説明会  
20日 情報メディア学部教授会

### ◇大学院◇

4月 5日 研究科委員会  
6日 学位論文等研究計画発表会  
24日 研究科委員会  
5月26日 推薦入学試験  
7月 5日 研究科委員会

### ◇通信教育部◇

4月 1日 前期インターネットメディア授業開始  
9日 前期IPメディア授業放映開始  
10日 平成24年度第8回入学選考  
5月19日~20日 前期印刷・インターネットメディア授業科目試験①  
6月15日~17日 前期地方スクーリング(1)  
7月 6日~8日 前期地方スクーリング(2)  
9日、17日~20日 前期IPメディア授業科目試験

## ◆◆ 広報活動 ◆◆

### 《進学相談会》

4月:北海道16会場(函館(3)、札幌、北見(2)、旭川(2)、稚内、花川南、中標津、釧路、帯広、小樽、苫小牧、室蘭)  
埼玉県 1会場(さいたま)  
5月:北海道13会場(北見、旭川、静内、紋別、枝幸、帯広、釧路、札幌(2)、函館、月寒、新札幌、稚内)  
秋田県 1会場(秋田)  
埼玉県 1会場(さいたま)  
6月:北海道22会場(函館、札幌(2)、札幌北(2)、旭川、北見、釧路、帯広、浦河、網走、中標津、苫小牧、室蘭、岩見沢、小樽、名寄、稚内、新札幌、滝川、八雲、江差)  
7月:北海道 2会場(苫小牧、札幌)

### 《高校内ガイダンス》

4月:北海道 5校(深川東高校、江陵高校、滝川西高校、札幌大谷高校、駒澤大学附属苫小牧高校)  
東京都 1校(杉並学院高校)  
5月:北海道 3校(檜山北高校、北星学園女子高校、北海学園札幌高校)  
栃木県 2校(作新学院高校(2))  
千葉県 1校(敬愛学園高校)  
東京都 2校(東京実業高校、豊南高校)  
神奈川県3校(横浜清風高校、武相高校、相洋高校)  
6月:北海道15校(札幌龍谷学園高校、札幌北斗高校、飛鳥未来高校、札幌静修高校、札幌厚別高校、駒澤大学附属岩見沢高校、札幌創成高校、旭川実業高校、旭川龍谷高校、当別高校、札幌南陵高校、札幌光星高校、札幌山の手高校、北海高校、倶知安高校)  
千葉県 1校(千葉黎明高校)  
埼玉県 5校(小松原女子高校、小松原高校、武蔵越生高校、細田学園高校、埼玉栄高校)  
東京都 1校(昭和第一高校)  
神奈川県 1校(向上高校)  
福岡県 1校(中村学園三陽高校)  
7月:北海道 2校(旭川大学高校、帯広北高校)  
埼玉県 2校(浦和学院高校、花咲徳栄高校)  
東京都 1校(杉並学院高校)

### 《高校内進路講演会》

4月:北海道 1校(上川高校)  
5月:北海道 5校(札幌山の手高校、長万部高校、八雲高校、札幌琴似工業高校、南幌高校)  
6月:北海道 5校(釧路明輝高校、野幌高校、札幌丘珠高校、穂別高校、恵庭南高校)  
7月:北海道 1校(北海道栄高校)

### 《高校出張講義》

6月:北海道 1校(札幌創成高校)  
7月:北海道 2校(鶴川高校、釧路明輝高校)

### 《高校訪問》

4月:北海道53校、栃木県1校、埼玉県4校、千葉県1校、東京都4校、神奈川県3校  
5月:北海道181校、茨城県3校、埼玉県4校、東京都7校、神奈川県1校  
6月:北海道108校、秋田県24校、東京都2校  
7月:北海道163校、埼玉県4校、千葉県1校、東京都2校、神奈川県1校

### 《オープンキャンパス》

4月15日 本学  
5月12日 北見、釧路  
13日 旭川、帯広、函館  
27日 本学  
6月17日 本学  
24日 本学

### 《AO入試・奨学金説明会》

7月 1日 本学

### ◇通信教育部◇

### 《入学説明会:本学独自》

7月:4会場(本学、東京、広島、福岡)

## ◆◆ 主な来学者 ◆◆

### ◇大学◇

4月11日 北海道経済産業局長他一行  
5月30日 内閣官房他一行

### ◇広報室来学者◇

5月18日 小清水高校(大学見学:生徒4名、教員1名)  
31日 大樹高校(大学見学:生徒3名)  
6月 1日 下川商業高校(大学見学:生徒1名)  
7日 旭川明成高校(大学見学:生徒32名、教員2名)  
8日 旭川龍谷高校(大学見学:生徒45名、教員1名)  
12日 上川高校(大学見学:生徒5名)  
13日 大分国際情報高校(大学見学:生徒77名、教員6名)  
20日 江別高校(大学見学:生徒7名)  
7月10日 松風塾高校(教員1名)  
13日 旭川商業高校(大学見学:生徒80名、教員4名)

学内報について、ご意見、ご要望などがございましたらnanakamado@do-johodai.ac.jpまでお寄せ下さい。